

# T.M.P. NEWS

VOL.57 2021.1

T.M.P.

皆様、あけましておめでとうございます。

藪から棒に恐縮ですが、「あけましておめでとうございます。」の意味を調べてみました。数え年が一般的であった戦前に、旧年を無事に過ごすことができ、元旦に無事一歳年齢を重ねることが出来たのを喜んだ事に由来するそうです。今年の正月は、この言葉の意味をかみしめる年となりました。

昨年末には英国・米国でコロナワクチン投与が始まり、世界中がその行く末を期待と不安を交えながら見守っています。経済、医療、地域社会など多くを破壊し、多くの不幸を人々にもたらした新型コロナウイルスですが、その一方、副産物としてテレワークという新たな働き方を日本に定着させました。

毎年国連が発表する、国別幸福度調査には「人生選択の自由度」という項目があります。これは個人が2つ以上の選択肢の中から、外部の関係者からの制約を受けずに選択できる機会と自立性が与えられている状態を指すそうです。残念ながら、一昨年、日本はランキングが62位に甘んじておりますが、コロナがもたらしたテレワークにより、日本人は選択の自由という新たな幸福を手に入れるかもしれません。

人生万事塞翁が馬、今年一年が皆様にとりまして実り多き年となる事を心よりお祈り申し上げます。

株式会社東海メディカルプロダクツ  
代表取締役社長 筒井康弘

## 名古屋商工会議所 筒井宣政基金記念講演会



11月20日、名古屋商工会議所で筒井宣政基金記念講演会が開催されました。この「筒井宣政基金」は、2018年10月、筒井会長からの寄付により名古屋商工会議所(メディカル・デバイス産業振興協議会)に創設されました。

協議会幹事長である筒井会長の発案で協議会内に「スタートアップ支援金制度」が既に設けられておりましたが、協議会会員企業が新しい医療機器開発にさらに意欲的に取り組めるように、そして、その開発が国民の健康増進や社会貢献への寄与につながる

ようにと願いを込めて、医療機器開発の初動期に必要な経費を補助することを目的として創設されたのが「筒井宣政基金」であります。

制度としてはAタイプ(原則上限100万円)とBタイプ(一律20万円)の2タイプがあり、これまでに約10件の開発・改良案件が採択されました。今回の講演会では、この基金を活用して製品開発に取り組んでいる3社(株式会社豊栄工業様、NU-Medライフケアシステムズ株式会社様、曙工業株式会社様)より、取り組み事例を発表いただきました。

また、講演会では名古屋大学大学院工学研究科/未来社会創造機構 ナノライフシステム研究所 所長 馬場嘉信教授から「ナノバイオデバイスとAIが拓く次世代感染症対策」と題して基調講演をしていただきました。

## 第58回日本人工臓器学会大会「Yoshimi Memorial T.M.P. Grant」



2020年11月12日～14日、高知県立県民文化ホール・三翠園にて第58回日本人工臓器学会大会(大会長:高知大学医学部外科学講座外科1 教授 花崎和弘先生)が開催されました。

この人工臓器学会には、民間の協力を得て将来発展が期待される日本発の全く新しいidea、萌芽的研究を掘り起こし、これらの研究に対して助成を行う制度(Grant)があります。

通常は会社名を冠する Grantですが、特別に許可をいただき、夭折した筒井夫妻の次女の名前を冠し、「Yoshimi Memorial T.M.P. Grant」として、1996年から開始して今年で25回目です。総会・評議員会の場で表彰式が執り行われ、「自己心膜再生能および癒着防止効果を有するフレキシブル人工心膜の開発」を研究されている東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 橋本良秀先生への表彰を行いました。

JSAO パネルディスカッション「企業からみた人工臓器開発」



第58回日本人工臓器学会大会会期中の11月14日、パネルディスカッション「企業からみた人工臓器開発」に筒井社長が登壇し、「小児向け弁拡張用バルーンの開発とその適応拡大」というテーマで発表いたしました。

早稲田大学先端生命医科学センター・梅津光生先生、日機装株式会社・木下良彦様が座長をされ、医療機器センター附属医療機器産業研究所・松橋裕輝様、国立医薬品食品衛生研究所・岡本吉弘様、株式会社タカトリ・福光秀之様、日機装株式会社・浅野拓司様、総勢7名が登壇し、活発な議論を行いました。

昨年（2019年）の第57回大会・JSAOシンポジウム「希少疾病に対する人工臓器研究・開発の実用化、事業化に向けての取り組み」において「小児向け弁拡張バルーンカテーテルの開発」というテーマで開発経緯や課題、今後の展望について発表いたしました。今回はその後の動きとして、開発した小児向け弁拡張バルーンカテーテルを静的心房中隔裂開術（Static BAS）へ適応拡大させるための動きについて発表させていただきました。

第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

2020年11月19日～21日、国立京都国際会館にて第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（大会長 石井暁先生 京都大学医学部附属病院 脳神経外科）が開催され、今回はコロナ禍での開催に伴い、現地会場とWEB聴講のハイブリット開催となりました。当社は現地会場にて機器展示を行い、多くの先生方からご愛用をいただいておりますOPTIMO EPD®の新しいランナップ「OPTIMO EPD® 9Fr Flex Type」を展示いたしました。全国より多くの先生方にお立ち寄りいただき、製品コンセプトの理解を深めていただけたと存じます。

また20日にアフタヌーンセミナーを実施し、「次の一手2020-虚血、動脈瘤、シャント疾患の最新を学ぶ60分」という内容で昭和大学藤が丘病院の寺田友昭先生と津本智幸先生に「OPTIMO EPD® 9Fr Flex Type」の有効性や経験豊富な症例の中から治療戦略のコツなどをご講演いただきました。WEB聴講のみのセミナーとなりましたが、多くの先生方から反響をいただきました。

今後も、多様化していく治療の中で現在の製品に満足することなく、国産企業として先生方からのご要望にお応えし、患者様のお役に立てる製品開発に努めていくことを改めて感じました。（河邊 記）



## コラム

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2020年の流行語大賞に密閉・密集・密接を避ける「3密」が選ばれたように一年を通してコロナ・コロナ・コロナで、我慢・忍耐・辛抱の日々、多くの不便・不自由・不都合が生じました。

しかし、こういうピンチの後には必ず機会・好機・時機が訪れます。

2021年は開発されたワクチンの接種が米国・欧州・日本など全世界で始まり有望で、希望的で、展望が開けた年になることを祈るばかりです。

熱心に、一心に、専心に、前を向いて歩み続けて、

3密ならぬ3Y(やりがいのある、喜ばしい、良い)年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

筒井 宣政



株式会社  
東海メディカルプロダクツ

**T.M.P.NEWS** VOL.57 2021年1月発行 編集発行人:筒井 康弘

〒486-0808 愛知県春日井市田楽町字更屋敷1485番地

【TEL】 0568-81-7954 【FAX】 81-7785

【E-mail】 info@tokaimedpro.co.jp 【HP】 http://www.tokaimedpro.co.jp